

百人一首解
全

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100





百人一首解

人乃公をそまひてうらむるもあはれ
魂もいん人のまはれをえんこも
糸のこもねてあはれをえんこも
くいののりま世とまはれをえんこも
を何れもねのまはれをえんこも
糸のつとへ人のまはれをえんこも
くいののりま世とまはれをえんこも



あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
と語らくても人のいふはしきまき(出まふより)あつても
まきのいふはしきまき(出まふより)あつても
て今のまきのいふはしきまき(出まふより)あつても
てあつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
たのいふはしきまき(出まふより)あつても
まきのいふはしきまき(出まふより)あつても
あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても

人あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
まきのいふはしきまき(出まふより)あつても
あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても
あつてもいふはしきまき(出まふより)あつても

久し家くしきしひしひしひし
その村をさすふち舟の楫とんやきし
其をさすひしひしひしひしひし
おきふるあつうし舟とまきしひし
まかりんしひしひしひしひしひし
霜しひしひしひしひしひしひし
黒髪のうちひしひしひしひしひし
家方ひしひしひしひしひしひし

おこのよしう先とこふしひしひしのや
おとわりしひしひしひしひしひし
おのひらひしひしひしひしひし
ひしひしひしひしひしひしひし
ひしひしひしひしひしひしひし
ひしひしひしひしひしひしひし
ひしひしひしひしひしひしひし
ひしひしひしひしひしひしひし
ひしひしひしひしひしひしひし
ひしひしひしひしひしひしひし



まろつらふ **夏** 夏草に大なりし 二 二枚ノ物あり
その名の如く夏草に大なりし二枚ノ物あり
あかしの草もゆきまらふ ゆきまらふ
あかしの草もゆきまらふ ゆきまらふ
あかしの草もゆきまらふ ゆきまらふ
あかしの草もゆきまらふ ゆきまらふ

校を人替

題まろつらふ 拾遺果也

あーびきの あーびきの の あーびきの やまざり あーびきの のおえ
乃まろつらふ 乃まろつらふ の 乃まろつらふ なるく

茶 茶 **藤** 藤 **赤** 赤 **人** 人
藤 藤 **赤** 赤 **人** 人
藤 藤 **赤** 赤 **人** 人
藤 藤 **赤** 赤 **人** 人

題まろつらふ 新古今茶也

たこのうら たこのうら **藤** 藤 **赤** 赤 **人** 人
を を **藤** 藤 **赤** 赤 **人** 人
根 根 **藤** 藤 **赤** 赤 **人** 人
根 根 **藤** 藤 **赤** 赤 **人** 人

中納言家持

是より更の三こと わか事重二の家乃 秋合乃

哥 今秋まの人の後

かく山 鹿の社 乃 今秋まの人の後

かく鹿の声 今秋まの人の後

うか 今秋まの人の後

中納言家持

歌 今秋まの人の後

かく 今秋まの人の後

はるき 今秋まの人の後

安宿付樂

もろ 今秋まの人の後

ん 今秋まの人の後

あま 今秋まの人の後

あ 今秋まの人の後

あ 今秋まの人の後



三五のふ春ははに提物し月も提物

春撰法師

類ちくは百今集

わの巻をまやこ平本のたろ

ちろ大かきしんいんしんいんしんいんしん

とろいんしんいんしんいんしんいんしん

小受小所

類ちくは百今集

花想乃ははうほりふらふらいん

きりかいんしんいんしんいんしん

いんしんいんしんいんしんいんしん

類九

香飯遠のの園あそびはあそびいん

とほりて住わたりいんいんいん

いんいんいんいんいんいん

いんいんいんいんいんいん

ひんがしめしとてしりてつゝ
かきしめしとてしりてつゝ

あつたこの二三のうらやまをいひしりてつゝ

つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

もあつたつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

つゝつゝつゝ

冬 議堂

強岐の明るるがふれきつゝつゝつゝつゝつゝ

つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

あつた人々のもつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

備正通昭

五節 本年五月申の日のかきつゝつゝつゝつゝ

つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

あつたつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

おん人々ふきとらちよ ヤアアのいふさきさしめくたしよ
のほのききあしよ **志**
○まよのひたれ まよのひたれ **志**
○まよのひたれ まよのひたれ **志**
○まよのひたれ まよのひたれ **志**

陽成院

ほろどの 六条のふ東御所 乃みこ 元春天皇
二の皇太子

○まよのひたれ まよのひたれ **志**

ほろどの 六条のふ東御所 乃みこ 元春天皇
二の皇太子

よりまろ まよのひたれ **志**

濁りなりきふ **志**

河岳左大臣

額 額

みちれく みちれく のまの のまの

推伊 推伊

らふく らふく



光孝天皇

仁和帝みこ 勅云 王おろし 御一きり

御一人 王わろし 御一人 御一人

天武天皇 御一人 御一人 御一人

天智天皇 御一人 御一人 御一人

天智天皇 御一人 御一人 御一人

中絶言行平

いさばの骨をり

二月丙申 祝ひ下北

御一人 御一人 御一人

御一人 御一人 御一人

御一人 御一人 御一人

御一人 御一人 御一人

御一人 御一人 御一人

御一人 御一人 御一人

御一人 御一人 御一人

御一人 御一人 御一人

御一人 御一人 御一人



五田河上竹葉なをけるものごとくもり

ありて影をてしあふ古今事類

ちくわぶ神代の北河神代の北河神代の北河神代

そつて河水の北河水の北河水の北河水

水水の北河水の北河水の北河水

藤原秋行親長

寛平の仁時中つ入后宮仁安乃奇

合の秋古今事類

信乃え藤原の若若より信信の若若より信信

人人の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

信信の若若より信信の若若より信信

てよとし や 或神のほまじき人

元良親王

や き 皇道の王や た であつて の ちふふ ま ち

の こ ち を 所 に あり て つか ひ する

ま じ め を ば な げ を せ し 介 を 介 を 介

ま じ め を ば な げ を せ し 介 を 介 を 介

ま じ め を ば な げ を せ し 介 を 介 を 介

ま じ め を ば な げ を せ し 介 を 介 を 介

ま じ め を ば な げ を せ し 介 を 介 を 介

て い ろ あ り ん し を み り ん の な が と あ い と

素性法師

人 と ま の な は 今 の 六 帖 教 思

今 の ま ん と い ひ を む く り に

今 の ま ん と い ひ を む く り に

月 と す ら せ ん の か 敷 神

文 屋 康 秀

是 と 貞 教 王 の 象 の 教 合 の 号 今 の 集 秋



吹くもた 吹くもた 秋の草 木のまぢうねを

いへむやうねを いへむやうねを ありし 是の定

いふらん いふらん

大の千里

是の良のふに秋の草合にふふふふふ

月 月 是れむあはれにあらむかききり

秋の草 秋の草 秋の草の秋の草

此の草は秋の草の秋の草

世の家

朱雀院 朱雀院 上の草 上の草

は は 草の草の草の草

此 此 草の草の草の草

あ あ 草の草の草の草

神のまねく 神のまねく

三條右大臣 三條右大臣

百八の草



とんふのともにつうとゞやう復原まじ

名小 ねんふ 名前のついでに名をよむこと

あふね あふねはあふねのさうらう

人 人とはひとをいふこと

貞信公 貞信公は貞信の公をいふこと

亭子院 亭子院は亭子の院をいふこと

大井河 大井河は大井の河をいふこと

御堂 御堂は御堂の御堂をいふこと

行章 行章は行章の行章をいふこと

らやぬきあかりとあわせりやういしと

委をんとすりしとく 於道是教社

とくふ とくふはとくふのとくふをいふこと

ちるあやう ちるあやうはちるあやうのちるあやうをいふこと

一いいのちゆき 一いいのちゆきは一いいのちゆきの一いいのちゆきをいふこと

中絶言兼辨 中絶言兼辨は中絶言兼辨の中絶言兼辨をいふこと

是 是は是の是をいふこと

あふね あふねはあふねのあふねをいふこと

わき わきはわきのわきをいふこと

て てはてのてをいふこと

あふね あふねはあふねのあふねをいふこと

い いはいのいをいふこと

つ つはつのはつをいふこと

い いはいのいをいふこと

川 ニキクノ川ノ形ニ似ル いん 又キクノ川
のん ちん ニキクノ川ノ形ニ似ル ちん 又キクノ川

保宗子朝臣

冬冬ノヨリニ 冬冬ノヨリニ 冬冬ノヨリニ

ふ ふ **レ** ふ **レ** ふ **レ** ふ

め め **レ** め **レ** め **レ** め

九河内躬恒

九河内躬恒

冬 冬ノヨリニ 冬 冬ノヨリニ 冬 冬ノヨリニ

ん ん **レ** ん **レ** ん **レ** ん

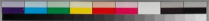
と と **レ** と **レ** と **レ** と

と と **レ** と **レ** と **レ** と

壬午忠平

ん ん **レ** ん **レ** ん **レ** ん

あり あり **レ** あり **レ** あり **レ** あり



又く

わづね あまのつたふらふらとて

暁 あけぼの

てつり あけぼの

坂上是則 あけぼの

大和のちか

はつとり あけぼの

しる あけぼの

あき あけぼの

まて あけぼの

あき あけぼの

まて あけぼの

春道列樹

志 あけぼの

く あけぼの

山 あけぼの

紀 あけぼの

久 あけぼの

久 あけぼの

久 あけぼの

久 あけぼの



さき **ら**の **花** **なく**の **ちり** **らん**

藤 **五** **真** **丸**

類 **ち** **は** **後** 古今集巻

誰 **か** **も** 御井 **ま** **ろ** **う** **人** **よ** **せん** の **い** **ふ** **け** **ん**

な **ら** **む** **ら** **む** **ら** **む** **ら** **む** **ら** **む** **ら** **む** **ら** **む** **ら** **む** **ら** **む** **ら** **む**

の **友** **ふ** **か** **れ** **ら** **か** **く** 夏 **よ** か **う** **な** **の** **う** **た** **ら** **ぬ**

の **世** **と** **ら** **の** **物** **は** **の** **もの** **に** **し** **て** **し** **ま** **す** **か**

紀 **貫** **之**

ま **ろ** **う** **を** **ば** **い** **は** **ま** **う** **つ** **る** 甲 **け** **ん** **の** **い** **ふ** **け** **ん**

や **ど** **り** **も** **ち** **の** **家** **よ** **う** **く** **や** **せ** **の** **み** **や**

や **へ** **く** **後** **は** **い** **が** **け** **り** **も** **ね** **む** **の** **家** **ら**

あ **り** **し** **め** **さ** **と** **た** **ら** **し** **め** **さ** **と** **た** **ら** **し** **め** **さ** **と** **た** **ら** **し** **め** **さ**

は **な** **じ** **む** **こ** **は** **り** **よ** **り** **竹** **垣** **を** **ら** **梅** **の** **花**

を **ね** **り** **て** **し** **め** **る** 古今集巻

人 **の** **い** **さ** **ら** **も** **あ** **く** **し** **は** **な** **の** **人** **も** **い** **と** **し** **た** **ら** **し** **め**



^{てふたひにさへともさうのたふせり}
^{ゆき} **ぬ** ^{しづか} ^{たけ} ^{くさ}
^{さか} ^は ^か ^た ^た ^た
^た ^た ^た ^た ^た ^た

うやしめふ

清石深養父

月乃ねもあかりも景蹟などには

とくめふるを今思は

夏の夜こそまぶよし ^{あま} ^は ^か ^か ^う ^あ ^け ^め ^る

雲乃いづこそ月や ^う ^ら ^ん ^の ^か ^ら ^い ^は ^れ ^り

文慶朝康

延喜の御時舟あしをわび ^は ^な ^は ^な ^は ^な ^は

あしをわび風のゆらぎ ^あ ^き ^の ^あ ^は ^ら ^い

ゆらぎもあやま ^あ ^や ^ま ^の ^あ ^や ^ま

右道

あしをわび風のゆらぎ

ゆらぎもあやま

あしをわび風のゆらぎ



人々の命

私一人とあつたか

冬議會

人へはらくしやの

あさひのそ乃

あさわで

人の

人の

平兼盛

天曆供御合 於還急

志の上

おもしろ人のさ

大生忠見

天曆供御合 於還急

志の上

おもしろ人のさ

新入新編

東大蔵



いとめし かたがはのよきまふく

清原元輔

ふかき けつ けつ 源氏のよきまふく かに まふく くに まふく くに まふく くに まふく

ちきりき けつ ち まふく かに まふく くに まふく くに まふく

ま けつ くに まふく くに まふく くに まふく くに まふく

か けつ くに まふく くに まふく くに まふく くに まふく

積中仙言教忠 かたがはのよきまふく

と まふく くに まふく くに まふく くに まふく

あ けつ くに まふく くに まふく くに まふく くに まふく

中仙言朝忠

天曆内平命 かたがはのよきまふく

あ けつ くに まふく くに まふく くに まふく くに まふく

く けつ くに まふく くに まふく くに まふく くに まふく

護徳公

ものゆゑのわづらふとんかの様はほもをくわり

てさうにあらざりしをわらへて

あらねといふべき人なほいやくせ

はつと人なほいやくせ

はつと人なほいやくせ

菅原好忠

菅原好忠

由良の門をわづらふ舟人

由良の門をわづらふ舟人

とくそえ

とくそえ

忠慶法師

忠慶法師

忠慶法師

忠慶法師

忠慶法師

忠慶法師



冷泉院東宮とすもを何一百万のす

入る有りやと六十六ふ 詞花集

机をいす 机のいすをいす 思ふつるし 思ふつるし

とのとぬ とのとぬ 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし

大中并能宣朝臣

題 詞花集

入るさより 入るさより 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし

思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし

おとろとみ人

藤原義孝

とんさう とんさう 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし

思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし

思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし

思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし

藤原實方

かゝる かゝる 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし 思ふつるし

かく （カク） **えわひりさき** （外田口）

（カク） **乃さーをぐ** （上）

（カク） **さーも** （上）

（カク） **さーも** （上）

（カク） **さーも** （上）

（カク） **さーも** （上）

（カク） **さーも** （上）

（カク） **さーも** （上）

（カク） **さーも** （上）

右近大将道綱母

十月味日 （カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）

（カク） **なほ** （上）



おしりしや 熊野日記

かじきつ かじきつ 久きあとも 久きあとも あり あり

いつた いつた 久きあとも 久きあとも あり あり

儀同之司母 儀同之司母

中の園白 中の園白 おんしあけり おんしあけり

に に おんしあけり おんしあけり

を を おんしあけり おんしあけり

を を おんしあけり おんしあけり

大納言公任

暖減の大覺 暖減の大覺

ゆ ゆ

ゆ ゆ

久 久

久 久

和泉式部

あつち例なくばゆりきり人をもとに
つとてしきふ後世遺事也

あつち例なくばゆりきり人をもとに
今一ふいのあつちあつちもつち

築式部

そわくつとてはまわらむをわらむをわらむを
きり人のもつちあつちゆりきり人の
あつちあつち七月十日あつちゆりきり

あつち例なくばゆりきり人をもとに

あつち例なくばゆりきり人をもとに

あつち例なくばゆりきり人をもとに

あつち例なくばゆりきり人をもとに

あつち例なくばゆりきり人をもとに

大蔵三位

あつち例なくばゆりきり人をもとに

あつち例なくばゆりきり人をもとに

白ひめふこうか

清少納言

大徳寺行成はゆゑものぞよりきくけり
内にはものいも世中の内務に
不問伏せりて公の御のほけり
まづ世の御のほけりけり
いもささつてふ
声よもわさ村も
ゆりもとむ

茶ぬかりやりの声の
いもささつてふ
声よもわさ村も
ゆりもとむ

茶とふめて
○茶のふめて
△茶のふめて

五ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ二十一ノ二十二ノ二十三ノ二十四ノ二十五ノ二十六ノ二十七ノ二十八ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ三十三ノ三十四ノ三十五ノ三十六ノ三十七ノ三十八ノ三十九ノ四十ノ四十一ノ四十二ノ四十三ノ四十四ノ四十五ノ四十六ノ四十七ノ四十八ノ四十九ノ五十ノ五十一ノ五十二ノ五十三ノ五十四ノ五十五ノ五十六ノ五十七ノ五十八ノ五十九ノ六十ノ六十一ノ六十二ノ六十三ノ六十四ノ六十五ノ六十六ノ六十七ノ六十八ノ六十九ノ七十ノ七十一ノ七十二ノ七十三ノ七十四ノ七十五ノ七十六ノ七十七ノ七十八ノ七十九ノ八十ノ八十一ノ八十二ノ八十三ノ八十四ノ八十五ノ八十六ノ八十七ノ八十八ノ八十九ノ九十ノ九十一ノ九十二ノ九十三ノ九十四ノ九十五ノ九十六ノ九十七ノ九十八ノ九十九ノ百ノ百一ノ百二ノ百三ノ百四ノ百五ノ百六ノ百七ノ百八ノ百九ノ百十ノ百十一ノ百十二ノ百十三ノ百十四ノ百十五ノ百十六ノ百十七ノ百十八ノ百十九ノ百二十ノ百二十一ノ百二十二ノ百二十三ノ百二十四ノ百二十五ノ百二十六ノ百二十七ノ百二十八ノ百二十九ノ百三十ノ百三十一ノ百三十二ノ百三十三ノ百三十四ノ百三十五ノ百三十六ノ百三十七ノ百三十八ノ百三十九ノ百四十ノ百四十一ノ百四十二ノ百四十三ノ百四十四ノ百四十五ノ百四十六ノ百四十七ノ百四十八ノ百四十九ノ百五十ノ百五十一ノ百五十二ノ百五十三ノ百五十四ノ百五十五ノ百五十六ノ百五十七ノ百五十八ノ百五十九ノ百六十ノ百六十一ノ百六十二ノ百六十三ノ百六十四ノ百六十五ノ百六十六ノ百六十七ノ百六十八ノ百六十九ノ百七十ノ百七十一ノ百七十二ノ百七十三ノ百七十四ノ百七十五ノ百七十六ノ百七十七ノ百七十八ノ百七十九ノ百八十ノ百八十一ノ百八十二ノ百八十三ノ百八十四ノ百八十五ノ百八十六ノ百八十七ノ百八十八ノ百八十九ノ百九十ノ百九十一ノ百九十二ノ百九十三ノ百九十四ノ百九十五ノ百九十六ノ百九十七ノ百九十八ノ百九十九ノ百十

きー
九京大夫道雅

伊勢の舟吉はうらやまのぢりてわり
ちり人
ふとも
おやわけもきり
かえりなむつらせむじて思ひもかまは
かりにやれむとん竹をか

今ひらみみしひだくまん
ばうと
権中納言空雅

うはつはぬりてわりも耐ある
船やうけし
あつた
ゆしわあやろ本

百ノ一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ二十一ノ二十二ノ二十三ノ二十四ノ二十五ノ二十六ノ二十七ノ二十八ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ三十三ノ三十四ノ三十五ノ三十六ノ三十七ノ三十八ノ三十九ノ四十ノ四十一ノ四十二ノ四十三ノ四十四ノ四十五ノ四十六ノ四十七ノ四十八ノ四十九ノ五十ノ五十一ノ五十二ノ五十三ノ五十四ノ五十五ノ五十六ノ五十七ノ五十八ノ五十九ノ六十ノ六十一ノ六十二ノ六十三ノ六十四ノ六十五ノ六十六ノ六十七ノ六十八ノ六十九ノ七十ノ七十一ノ七十二ノ七十三ノ七十四ノ七十五ノ七十六ノ七十七ノ七十八ノ七十九ノ八十ノ八十一ノ八十二ノ八十三ノ八十四ノ八十五ノ八十六ノ八十七ノ八十八ノ八十九ノ九十ノ九十一ノ九十二ノ九十三ノ九十四ノ九十五ノ九十六ノ九十七ノ九十八ノ九十九ノ百ノ百一ノ百二ノ百三ノ百四ノ百五ノ百六ノ百七ノ百八ノ百九ノ百十ノ百十一ノ百十二ノ百十三ノ百十四ノ百十五ノ百十六ノ百十七ノ百十八ノ百十九ノ百二十ノ百二十一ノ百二十二ノ百二十三ノ百二十四ノ百二十五ノ百二十六ノ百二十七ノ百二十八ノ百二十九ノ百三十ノ百三十一ノ百三十二ノ百三十三ノ百三十四ノ百三十五ノ百三十六ノ百三十七ノ百三十八ノ百三十九ノ百四十ノ百四十一ノ百四十二ノ百四十三ノ百四十四ノ百四十五ノ百四十六ノ百四十七ノ百四十八ノ百四十九ノ百五十ノ百五十一ノ百五十二ノ百五十三ノ百五十四ノ百五十五ノ百五十六ノ百五十七ノ百五十八ノ百五十九ノ百六十ノ百六十一ノ百六十二ノ百六十三ノ百六十四ノ百六十五ノ百六十六ノ百六十七ノ百六十八ノ百六十九ノ百七十ノ百七十一ノ百七十二ノ百七十三ノ百七十四ノ百七十五ノ百七十六ノ百七十七ノ百七十八ノ百七十九ノ百八十ノ百八十一ノ百八十二ノ百八十三ノ百八十四ノ百八十五ノ百八十六ノ百八十七ノ百八十八ノ百八十九ノ百九十ノ百九十一ノ百九十二ノ百九十三ノ百九十四ノ百九十五ノ百九十六ノ百九十七ノ百九十八ノ百九十九ノ百十

居あつて物さうちぢうくきわ
 周防内侍よりふりむ松をが移し
共うかたけうと 中まのびやういといと
しんじうう 大の言忠家より移し
 かいふ州とアミも 某等のまより
 いもてわりせれむとけう
十員年暮
 まれ某乃 某よりり
各のまうス も移し
つぎにい
 かいなく

三条院

例をよびおぼしうて恒たさるんを
いしん めしきる
いしん のありつる
いしん 今もあやうき世に
いしん 志しく
いしん 能 岡内侍

永長四年丙表号令道治遺集秋

ありしや三しろのふとみねれもくちをよむ

そんごの川乃あり者なきをとり

良遠渡所

野野田遺集秋

ふじりふじりを花とま物とたしとを

いづくもおとせ秋の夕ぐせ

文網言俊信

師賢朝長徳久の梅津上城前の土里

じんままりて田家秋風いるまんぬ

よめふ金葉集秋

夕きけむ夕の田の梅津の夕

ああのままりやや杖杖風風ををああく

祐子内教王家紀伊

堀河院由辨殿書合のてて奥上の人の

中納言俊信の言言

乃所神不逢恵といふんを 十世某也

うききり人なつてんまてとらて 此の神は

乃のふなり ふに肌せやま

かゝるま いふ人の

藤原某也 某は

信都光豊 某は

佐唐會 十月十日

乃法師の請 法師の請

け收手入道兼大臣 兼大臣

うらみ うらみ

やゆい やゆい

又その 又その



新編 皇代通記 卷之四

大正十一年

しきりてしきりて 大正十一年 大正十一年
と命 大正十一年 大正十一年
大正の秋もいぬ 大正十一年 大正十一年

付 戦寺入る茶園白大政大臣

新設 三徳寺 佐よぬし 師匠上迄

豊 大正十一年 大正十一年

まひりたれよめか 大正十一年 大正十一年

その原 大正十一年 大正十一年

山宗徳院 大正十一年 大正十一年

願 大正十一年 大正十一年

御 大正十一年 大正十一年

漁兼四



園若千鳥いへるこゝよめり金吾集本

あまむら浮舟のひらふゆちのかくまんいく

茶のみまさめぬぬの園守守

きりしよあめら

たふ大夫頭輔

紫位院よ首首母母存存りりももりり

秋秋風風ををままびびくくるるももててぬぬれれ

ももとと出出るる月月ののううむむろろささややけけここ

待望門院院堀川

百百首首平平存存りりもも何何甚甚乃乃ああんんとと

よよめめふふ十十載載集集本本

かかんんののああららんん もももままいいげげ 果然然のの

いふふあめら

けけささはは知知れれるるもののををととももみみるる

後後徳徳丈丈寺寺九九丈丈長長

暁暁園園都都出出るるをを言言ははれれりり 十載載集集本本

ありきれ 呼つるをどかむとてた^てあり
ぬの月 不ぬくまは

道雨法師

觀つては十頁ある

ありしうび ^{うらまへ}とてよ ^い今 ^のあふ
ものと ^うまに ^め ^へ ^い ^さ ^は ^た ^り ^と ^を
自ら大府宮大夫使成

遠懐百篇乃舟よんゆさるる底の手

とてよめん ^十 ^頁 ^{ある}

世の中よ ^道 ^を ^か ^た ^し

おもい入 ^い ^の ^み ^く ^は ^も ^く ^ら ^ひ ^な ^く ^も

藤系法師新長

黙ま^つは ^新 ^五 ^頁 ^{ある}

か^か ^人 ^の ^う ^ち ^の ^し ^の ^や ^ま ^の ^む ^り ^ん
し ^こ ^え ^ー ^せ ^い ^七 ^今 ^の ^あ ^き ^ー ^き

皇嘉門院別當

攝政はつしや太上天皇の時家の子令孫也

達磨たつまといふたふとふか十歳也

かんとわの殿の名をわわけり麻あし乃

ひひまま乃乃とほくし乃

てわてまま乃乃とほくし乃

式子の教王

一白首身中に忍慈と前古今慈徳

むの緒むのゆゆよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

かかののばばるるよよんんぞぞ

めと 時とやりのカ **い** い **い** い

い まのたしとて **い** い **い** い

は まのたしとて **い** い **い** い

は まのたしとて **い** い **い** い

は まのたしとて **い** い **い** い

は まのたしとて **い** い **い** い

は まのたしとて **い** い **い** い

は まのたしとて **い** い **い** い

二條流段枝

寄名戀とい まあふと **い** い **い** い

わが袖 わが袖 **い** い **い** い

人 人 **い** い **い** い

鏡 鏡 **い** い **い** い

顯 顯 **い** い **い** い

ま ま **い** い **い** い

ち ち **い** い **い** い



ふりしむ 物にうらやまをいひしむこと 物にうらやまをいひしむこと 物にうらやまをいひしむこと

冬議雅徑

横な 此の長十の 横な 此の長十の 横な 此の長十の

ふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ

ふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ

葉大僧正慈園

聖徳太子 聖徳太子 聖徳太子 聖徳太子 聖徳太子 聖徳太子

ふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ

ふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ

ふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ

ふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ

ふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ

ふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ

ふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ 此のふりしむ

明和八年辛卯七月出版

寛政十二年庚申九月求販

寛政十二年庚申

江戸書林

申叔堂須原屋市兵衛

大坂書林

利清堂袖原屋嘉兵衛



長
江
回
大
三
部

